

令和4年度県立高等学校・県立中等教育学校における

手話に関する 取組事例集



高校教育課
令和4年12月

はじめに

共生社会の実現を目ざして、平成27年4月1日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務並びに県民及び事業者の役割を明らかにし、手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を行うとともに、手話を使用する者の協力を得て、手話の普及等を推進すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう努めることが求められています。その趣旨に則って、平成28年度から令和2年度の5年間を見据えて「神奈川県手話推進計画」が策定され、現在でも継続して各学校で様々な手話の取組が行われております。

本事例集は、毎年5月の「手話の取組強化月間」等を中心に資料を提供していただいた学校の協力のもとに作成し、今回で8集目になります。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響による様々な教育活動に制約がありますが、そのような状況下でも、優れた取組報告が多数あり、県立高等学校及び県立中等教育学校における手話の普及・啓発が着実に進んでいると考えます。なお、今年度も複数の活動での取組をしている学校やポスターの提供があった学校を別項目で紹介をしています。

今後も、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組の推進をお願いいたします。

令和4年12月

高校教育課

(表紙 横浜翠嵐高等学校 美術部)

もくじ

☆手話のあいさつ

..... 1

☆教職員の取組

- 1 横浜南陵高等学校 職員が学び、生徒に伝える..... 2
- 2 大和高等学校 手話初心者到手話講座..... 3

☆授業での取組

- 1 岸根高等学校 音楽Ⅰ、音楽Ⅱ..... 4
- 2 田奈高等学校 情報Ⅰ..... 5
- 3 金井高等学校 美術Ⅰ、音楽Ⅱ..... 6
- 4 横須賀南高等学校 コミュニケーション技術..... 7
- 5 小田原高等学校 保健体育..... 9
- 6 小田原高等学校 家庭総合..... 10
- 7 逗葉高等学校 総合的な探究の時間..... 11
- 8 相模原総合高等学校 学校設定科目「手話」..... 12
- 9 秦野曾屋高等学校 社会福祉基礎..... 13
- 10 津久井高等学校 コミュニケーション技術..... 14

☆特別活動での取組

- 1 希望ヶ丘高等学校 文化祭で手話ポスターを掲示..... 15
- 2 神奈川総合産業高等学校 福祉委員会の様々な活動他..... 16
- 3 秦野高等学校 社会福祉委員から全校生徒へ..... 18
- 4 座間総合高等学校 手話週間の設置..... 19

☆部活動での取組

- 1 二俣川看護福祉高等学校 手話部の活動..... 20

☆図書館等での展示

- 1 鶴見高等学校 図書室及び職員室前に手話コーナー設置..... 21
- 2 神奈川工業高等学校 図書室に「手話コーナー」設置..... 22
- 3 神奈川総合高等学校 図書館に「手話コーナー」設置..... 23
- 4 厚木北高等学校 図書館における手話に関わる書籍の展示..... 24
- 5 二宮高等学校 図書館に聴覚障がい関係資料の展示..... 25

☆複数の活動での取組

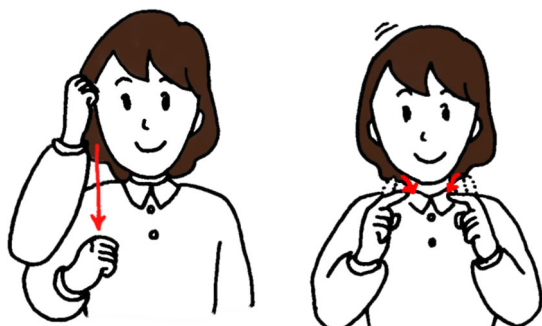
- 1 横浜旭陵高等学校 LHR、授業、漫画研究部の活動..... 26
- 2 白山高等学校 生徒総会、図書室にコーナー、HR..... 27
- 3 高浜高等学校 手話コミュニケーション部の活動
コミュニケーション技術の授業..... 28
- 4 相模向陽館高等学校 様々な場面での手話取組推進活動..... 29

☆手話ポスター紹介

- 横浜翠嵐高等学校、横浜立野高等学校、横須賀高等学校 } 32
} 33
平塚江南高等学校、茅ヶ崎北陵高等学校、秦野高等学校 } 34

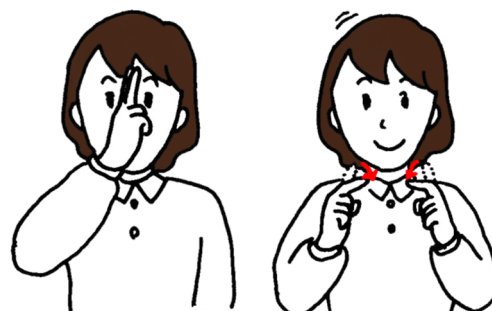
手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



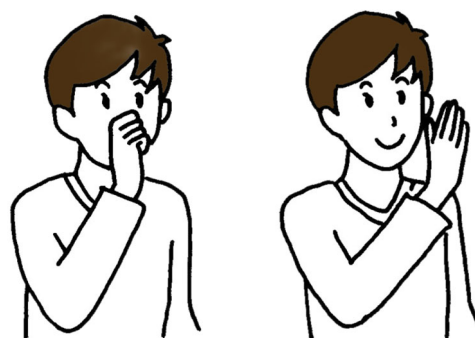
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

1 実施回数

6回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

各クラス担任

4 実施内容

朝の打ち合わせにて、手話担当の職員が全職員に対し手話を紹介した。
朝のHRにて、クラス担任が手話を紹介し、生徒も実際にその手話を使ってみた。

①おはよう ②こんにちは、元気です ③暑い、寒い、温かい、涼しい
④数字（1～30） ⑤誕生日はいつですか？ ○月○日です。 ⑥ごめんなさい ありがとう

5 生徒の感想（一部）

- ・手話は、思っていたよりも簡単に覚えられた。
- ・手話の表現をもっと知りたい。そして人のために役に立ちたい。
- ・手話で会話ができるとコミュニケーションの輪が広がって楽しい。

6 成果・課題

1週間で2回程度手話を使う機会があったため、生徒は手話に関心を持ったようである。手話の取組月間が終わった後も、生徒が手話に関わる機会を継続して作っていくことが課題である。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

- ・手話紹介動画の作成
社会福祉部の生徒が、日常的に使うことができる手話を紹介する動画を作成し、学校ホームページに掲載。
- ・職員対象手話講習会
社会福祉部の生徒が講師役となり、職員に手話による校歌を教えた。
- ・総合的な探究の時間
1学年の「福祉探究」において、1学年全員が校歌を手話で発表する。（2月）



担当職員が簡単に手話を紹介し、全職員が学んでいます。

1 実施回数

1回

2 対象者

希望者（12名）

3 実施者

本校教諭 本郷 真由美（外国語科教諭）

4 実施内容

- ・聴覚障がい者へのサポート方法を学ぶ。
- ・指文字を覚える。自分の名前を指文字で表す。
- ・自己紹介を手話で行う。
- ・日常生活で使う手話を覚える。（挨拶、気持ちを表す手話、食や時間に関する手話）

5 生徒の感想等

- ・手話には興味がありましたが、なかなか習えずにいました。学校で教えてもらえるというので参加しましたが、とても楽しかったです。
- ・家に帰って母に手話を教えてあげたら、母も喜んでいました。
- ・手話の成り立ちを知ると、覚えやすい気がしました。
- ・友達と一緒にだったので、楽しく覚えることができました。

6 成果・課題

全員が初めて手話を学ぶ生徒だったが、大変熱心に取り組み、用意したテキストの例をサクサクと全て覚えてしまうほどの上達ぶりだった。実際の高校生活で手話を使う機会はなかなかないかもしれないが、将来、生徒たちが「共に支え合う社会」の一翼を担ってくれることを期待する。

手話で気持ちを伝えよう！



1 実施回数

音楽Ⅰ（1年生）5時間、音楽Ⅱ（2年生）5時間

2 対象者

1年生音楽選択者（109名）、2年生音楽選択者（20名）

3 実施者

田口 和忠 芸術（音楽）科教諭

4 実施内容

- ・1年生は教科書の中から「翼をください」を題材として取り上げ歌詞に合わせて手話表現を行った。
導入として手話の挨拶や覚えるべき言葉を学習（1時間）。
歌詞に合わせた動作の確認と表現（3時間）。
表情を付けどのように伝えたらよいかなども含め、まとめとしての発表（1時間）
- ・2年生は本校校歌を手話で表現するために生徒自ら動作を調べグループごとにまとめた。
グループで言葉や単語を調べ歌詞に当てはまる動作を確認（3時間）。
グループごとに発表（1時間）。
手話の専門の方に動作を確認してもらい修正して最終仕上げ（1時間）

5 生徒の感想等

- ・表情や手の動作だけで、日常会話を伝えることの難しさを感じ、興味深かった。
- ・同じ動作なのに言葉によって使い方の違いがあり難しかった。

6 成果・課題

- ・生徒が少しでも手話に対して興味を持ち、挨拶や「手伝ってください」など日常に必要な言葉を学習することができた。
- ・継続して興味を持ち学ぶ生徒が増えてほしい。



1 実施回数

授業2～3回・朝のSHR20回程度

2 対象者

1 学年生徒・全学年生徒

3 実施者

井川 亜美（情報科教諭）・各クラス広報委員及び担任

4 実施内容

1 学年の生徒が「情報Ⅰ」の授業で、1 日一つ手話を紹介できる日めくりカレンダーを作成した。文書作成ソフト Word の操作方法の学習と合わせて、手話を知る機会となった。

1 学年の生徒が作成した日めくりカレンダーを全クラスに配付し、各クラスの広報委員の生徒が6月4日から6月24日にかけて毎朝手話を一つずつ紹介した。最終日に、Google Forms で作成したアンケートを全職員に配信して、毎朝の手話の紹介の効果を調査した。

5 生徒の感想等

手話の紹介時に生徒が手話のマネをする手話が話題になるなどの効果があった。全職員へ向けてのアンケートでは、生徒の反応を踏まえ、毎月実施してみたいという感想等があった。

6 成果・課題

職員向けアンケートの結果、広報委員の積極的な取組があるクラスと消極的な取組となったクラスがあるなど、生徒の取組に差があることがわかった。また、生徒の反応も様々であり、広報委員による手話の紹介とともに担任のフォローが大切であることも判明した。

これらのことから、まずは職員の理解と積極的な協力を得ることが最初の課題であることがわかった。また、委員会の生徒の活動状況も様々であることから、紹介の方法を工夫して、取り組みやすいかたちにすることが必要だとわかった。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

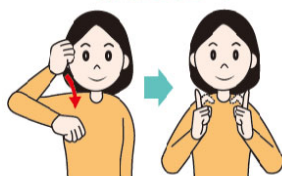
（6月4日～6月24日）

各クラスの広報委員の生徒が「手話紹介日めくりカレンダー」（1 学年生徒が「情報Ⅰ」の授業で作成したもの）をもとに毎朝1つ手話を紹介した。

6月6日

月曜日（Monday）

おはよう！



右手でこぶしを作り、こめかみのあたりにあててから、下ろす。

「おはよう」

June 15th

Wednesday

おいしい



右手の手のひらを右側のほおにつけて、2～3回軽くたたく。

「おいしい」

1 実施回数

各クラス4回程度

2 対象者

1学年美術Ⅰ選択の生徒、2学年音楽Ⅱ選択の生徒

3 実施者

土田 彩子（芸術〈美術〉科教諭）、阿部 あゆ子（芸術〈音楽〉科教諭）

4 実施内容

＜美術Ⅰ＞

毎時間の頭に設けている「基礎デッサン」の時間に簡単な手話と指文字の学習を行った。各生徒の氏名を指文字で表したものをデッサン、クロッキーすることにより、手話表現に親しむ機会とした。描く対象のバリエーションを増やし、基礎デッサン力の向上に繋げることもできた。

年間を通して授業の始めに行うことにより、継続的に指文字に親しみ、基礎力の向上に繋がる指導を行っている。

＜音楽Ⅱ＞

合唱の時間に簡単な手話表現を取り入れた。教員が例を示し、その後曲に合わせて手話表現を行った。手話でも歌詞の意味が伝わるよう気持ちを込めて表現することを意識して指導した。

文化祭の学習発表に向けて、パラリンピックのNHKテーマソング「カイト」を手話と共に練習した。顔や手も豊かな表現をすることで、より相手に気持ちを伝えられることを学習した。

5 生徒の感想等

今まで触れることのなかった手話を知る機会になってよかった。自分でも更に勉強してみたいと感じた。

6 成果・課題

事前に行ったアンケートでは手話に触れたことのある生徒はごく少数だった。普段行っている授業の題材として取り入れることで、身近に感じ興味を持つきっかけになった。



1学年・美術Ⅰ 美術室
自分の名前を指文字であらわしたものをクロッキー、デッサン。



2学年・音楽Ⅱ 音楽室
文化祭の学習発表に向けてパラリンピックのNHKテーマソング「カイト」を手話で歌う練習。

1 実施回数

8時間

2 対象者

1学年 福祉科 40名、1学年普通科 115名 計 155名

3 実施者

科目担当教諭（福祉科教諭）

4 実施内容

- ①聴覚障がいのある方への理解
- ②50音の指文字による手話表現
- ③挨拶・日常会話の手話表現
- ④緊急時の手話表現
- ⑤手話を楽しむ手話ソング（横須賀南高等学校の校歌）

5 生徒の感想等

（1年福祉科）

- ・自分の表現力の幅を広げることができた。新しいことに挑戦し、状況に応じて臨機応変に対応する力を身に付け自信をもつことができた。手話を通じて、様々な方とコミュニケーションをとってみたい。
- ・筆談などによる会話よりも、手話は相手と近く親しみやすくコミュニケーションをとることができる。手話が言語であることを実感した。
- ・手話が少しでも広がればいいなと思い、家族や友達に指文字や簡単な挨拶を教えるようになった。
- ・人前で手話をすることに慣れて、大きく丁寧にできるようになりたいと思うようになった。
- ・手話は、漢字と同じように意味に合った動きをすることを知り、面白いと思った。
- ・手話を通して、価値観の違いを分かり合える、誰かを支えられる人になりたいと改めて思うようになった。
- ・家族に手話で挨拶を試みたり、クイズを出してみたりなど手話に慣れるように色々と挑戦し、手話について理解を深めることができた。
- ・アルバイト中に持っているメモで筆談をして聴覚障がいのある方の接客をした。今までなら困っていることに気づくことができなかった。手話を知ることによって、多くの方を助けることができるかもしれない。

（1年普通科）

- ・障がいのある方も、社会の中で一緒に生活・仕事をしていることに気づいた。
- ・授業で手話を学びはじめてから、楽しくなって自分で色々と調べようになった。
- ・アルバイト先で聴覚障がいのある方がいらっしまった。手話はあまり分からなかったけど、最後に「ありがとう」だけ私から手話で伝えたら「good」と表現してもらい嬉しかった。手話を覚えると、自分も相手もプラスになる。
- ・街中で手話を素早く表現されている方を見かけた。続けていくことで、こんなに速く表現できるようになるのだと思えた。私も覚えて、表現できるようになりたい。
- ・電車内で補聴器を付けている方を見つけ、目が離せなく関心をもった。最近、電車内で聴覚障がいのある友人と出会い「久しぶり」と手話で表現し話しかけることができた。
- ・災害など何かあった時に放送だけだと分からない方もいる。それは日本の課題の1つであり、そこをサポートしていくのは私たちの役割だと気付いた。
- ・帰りの駅の改札口近くで、手話で会話をしている団体の方々が見えた。1回1回、一人ひとりの方に身体を向けて、目も合わせて大変そうだったが、ご本人たちはとても笑顔で楽しそうで会話も弾んでいた。意外と身近にもこのような方々がいらっしまったと考えると、手話を学ぶことは大切だと感じた。
- ・難聴の友人がいて、音が聞こえないことによって生きづらい世の中なのは知っていた。声を発することが難しくても、安心できる場所をたくさん作ってほしいと改めて思った。コロナの影響によりマスクが必須となり、口もとの動きを読み取れない。色々な方のことを視野に入れることが大切だと思う。
- ・目を見て相手の気持ちを確かめたり、顔の表情だったり、自分自身が最大限に気持ちを伝えることが大切なのだと思う。
- ・手話を学んで、楽しかった。ただ「面白かった」だけではなく、知識が増えたことが嬉しかった。これまで聴覚障がいのある方々の立場で物事を考えたことはあまりなかった。しかし、授業を通して少し相手の世界に入れたような気がした。

6 成果・課題

手話を学び、聴覚障がいのある方への理解をしようとする生徒の姿勢が育めた。授業後、実際に友人や親戚、登下校中やアルバイト先などで出会った聴覚障がいのある方と初めて手話での会話を経験し、コミュニケーションが図れた実体験を誇らしい表情で話す生徒もいた。新たな言語を1つ習得し、相手の状況に応じたコミュニケーションの一步を図り、生徒は自信を持つことができたようである。

また、聴覚障がいのある方だけではなく、周囲のあらゆる方々への気遣いや助け合う姿勢を身に付けられた。互いに安心して社会生活を過ごすことができるために、「共生社会」の一員として自身が実践すべきことなどを考えることができたようである。

以上を踏まえ、課題としてはこの姿勢・学びが一時的なものにならないように指導することである。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

①令和4年8月 ②令和5年3月

- ・学校説明会の開始前に、手話ソング（本校校歌）の録画画像を流し、中学生及び保護者に視聴していただく予定。
- ・年度末に実施する1年生の「学習成果発表会」の際に、1学年に発表する予定。



<手話写真の説明>

1学年「コミュニケーション技術」の授業で横須賀南高等学校の校歌を手話で表現し、練習しました。校歌の一部「明るい未来へ」と「高等学校」です。

1 実施回数
2回

2 対象者
1年次 保健体育履修生徒 36名

3 実施者
澤地 友貴（保健体育科教諭） 片瀬 宙志（保健体育科講師）

4 実施内容

- ・授業の始めに手話による挨拶を行い、手話に関する興味関心を高めてもらった。
- ・日常生活の様々な場面における手話を教えた。
- ・その後、場面ごとの絵を提示し、その場面にふさわしい手話を考えさせるクイズを出題した。
- ・次の授業で簡単な復習を行い、手話による挨拶の定着をはかった。

5 生徒の感想等

普段何気なく使ってるジェスチャー（さよなら、わかりました、ナイスなど）が手話であることをクイズ形式にして、生徒に考えてもらう時間を用意したところ、非常に活発に議論がなされていた。手話に自信がない生徒は、手話をするのが恥ずかしかったり抵抗もあるので、緊張しないで気軽に取り組んでもらえるような雰囲気づくりが大切と感じた。

6 成果・課題

手話することへの抵抗感をなくすことはできたと思う。今後は授業だけでなく、生活の中にも気軽に手話を取り入れ、コミュニケーションの手段として使っていくことができると、さらに身近なものになっていくと思う。

7 授業風景



1 実施回数
4回

2 対象者
定時制1年次

3 実施者
佐古広子（家庭科教諭）

4 実施内容

- ・簡単な挨拶と指文字のイラストをプリントに表示し、各自の自分の名前表現方法を考えた。
（知識・技能）（思考・判断・表現）
- ・手話を学んでみよう！【指文字・数字編】【手話実技編】（かなちゃんTV）を視聴しながら、実演と一緒に基本的な手話の表現に取り組んだ。（主体的に学習に取り組む態度）
- ・授業の始めに、手話で簡単な挨拶や自己紹介をした。（知識・技能）
- ・指文字しりとりゲームを通して、50音から濁音、半濁音、拗音、促音、長音の表現を学んだ。
（知識・技能）

5 生徒の感想等

- ・手話は小中学校を通して指文字を覚えていたので楽しく参加できた。
- ・最初はわからず戸惑ったけれど、友達同士でゲームをしながら覚えることができてうれしかった。
- ・言葉でなくても、伝え合うことができるのはすごいし、おもしろかった。

6 成果・課題

基本的な挨拶や自己紹介を互いに伝え合うことで、相手を理解しようとする姿勢が見られた。また、しりとりゲームでは、少人数のクラスなのですぐに出番が回ってきても、互いにヒントを出し合いながら手話表現を楽しむことができた。手話言語が生活の中で、自然と意思疎通の難しい人ともコミュニケーションができるようになるためには、さらに多くの生徒が手話に関心を持てる環境作りが必要だ。



1 実施回数
2回

2 対象者
1年生徒5名

3 実施者
青柳 美保子氏

4 実施内容

逗子高校が実践してきた地域連携事業をベースに、本校1年生の「総合的な探究の時間」にて、多様な分野で活躍する地域の人的資源を活用し、多くの講座を開設している。

今回、バリアフリーミュージックで活躍する青柳氏による「コロナ対策 ♪心と体で歌おう♪ LET'S SING FREE STYLE MUSIC ♪」という講座にて、音楽と手話を融合した学びを経験した。

5 生徒の感想等

音楽を通して、身体全体で手話を学ぶことができた。高校名など身近な事柄を手話で表現することができた。

6 成果・課題

取組自体の歴史が短く、今後の継続性が課題である。現在1年生限定なので、学年進行とともに、さらに発展した内容の講座の開設も検討したい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）
（7月）

上記の取組のまとめとして、体育館にて1学年全体で発表の場を設定し、各講座の参加者から、それぞれの学びや気づきを共有した。



1 実施回数

2単位×2講座

2 対象者

3学年

3 実施者

非常勤講師、本校職員

4 実施内容

全日本ろうあ連盟出版の「聴さんと学ぼう！」と独自プリントを活用し、実際に手話を行う事を中心に授業を行う。1年間で手話検定5級程度の力を付けることを目標に、名前・家族構成・自己紹介等基礎的内容の実施、読み取りから行い、趣味や買い物・病気・災害等の生活に関わる手話や、都道府県を表現する手話を学ぶ。相模原市聴覚障害者協会副会長や神奈川県登録盲ろう通訳介助者の方を招き、意思疎通の方法を学ぶ。

思考・判断・表現⇒聴覚障がいへの関わりについて積極的に考えることが出来たか。

技能⇒手話による表現、発表、会話が出来ようになったか。

知識・理解⇒聴覚障がい、手話に関する基礎的な知識を習得し、聴覚障がいについて理解することが出来たか。

5 生徒の感想等

聴覚障がい者の方と手話でコミュニケーションをとることが出来てとても良かった。聴覚障がい者の日常生活における違い、苦労、工夫を知ることが出来た。手話に限らず、相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢の重要性を学んだ。

6 成果・課題

障がい者理解が深まり、ハンディキャップの大きさを実感することが出来た。今後、健常者に出来ることは何か、考える機会を得ることが出来た。

聴覚障がいの方を招いた授業の様子



1 実施回数
5回

2 対象者
「社会福祉基礎」選択者（7名）

3 実施者
本校職員並びに秦野市聴覚障害者協会の手話講師及び手話通訳者

4 実施内容
秦野市聴覚障害者協会から手話講師を派遣してもらい、聴覚障がい者の生活や、「手話はジェスチャーではなく言語である」ということなどについての理解を深めるとともに、あいさつや自己紹介など簡単な手話の会話を練習した。また、秦野市市政 50 周年記念歌である「With you ありがとう」について、当該歌曲の歌詞の手話を付けた手話通訳者から直々に手話のレクチャーを受け、手話動画を作成した。1 学期終業式では、この動画を全校に配信し、取組に参加した生徒が手話について紹介することで、全校生徒が手話についての理解を深める機会とした。

5 生徒の感想等
今まで手話に触れてみたいとは思っていましたが、なかなか体験できる機会がなかったので、今回の手話講座を受けることができてとても勉強になりました。手話は、手の動きだけでなく、とても表情が豊かで素敵だなと思いました。人に何かを伝えるときは、言葉だけでなく表情も心がけていきたいと思います。

6 成果・課題
特に「With you ありがとう」に係る取組については、学校ホームページや地域のイベント等を活用して、秦野市内の小中学校や秦野市民の皆様に向けてさらに情報発信したい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）
9月 3年生自由選択科目「社会福祉基礎」における手話講師による手話会話の学習
9月 1年生全員「総合的な探究の時間『福祉実習』」における手話講師による手話会話の学習
10月 2年生全員「総合的な探究の時間『福祉実習』」における手話講師による手話会話の学習



「1年生『福祉実習』」での一コマ」

手話講師の方から、あいさつや自己紹介を習い、生徒同士で手話を使ってコミュニケーションしてみました。

1 実施回数

2回（50分×2）

2 対象者

1学年福祉科

3 実施者

小田川 紘子（福祉科教諭）

4 実施内容

視覚的に手話表現がわかりやすいよう、パワーポイントとプリントを併用し学習を展開した。

1. ①手話を学ぶ前の事前学習：

社会における手話の必要性や手話の実践・活用場面、共生社会に向けての取組について学習した。（手話クイズ、神奈川県手話言語条例、手話駐在所、デフリンピック）

②自己紹介：

（例：こんにちは。私の名前は〇〇です。津久井高等学校で福祉を学んでいます。私の好きな〇〇は△△です。よろしくお祈いします。 など）

2. ①簡単な会話の実践（今日〇〇と一緒に行きませんか。）

②興味のある単語の手話表現調べ（生徒所有のタブレット等を使用）

③介護現場で実践できる手話

（例：これから〇〇〔食事、入浴、お手洗い、座る、立つなど〕のお手伝いをしてよろしいでしょうか。体調は大丈夫ですか。体は痛いですか。 など）

5 生徒の感想等

- ・元々手話に興味はあったが、たくさんの手話表現をスムーズに行える人のすごさを感じた。
- ・単に手話を表現するだけでなく、表情もしっかり活用することが大切だと思った。
- ・デフリンピックの動画を自宅でもう一度見たが、オリンピックと変わらない迫力や面白さを感じ、親近感が湧いた。
- ・1つの言葉に対して表現がいくつもあることや、地域や国によって表現方法が違うことに驚いた。複雑で難しいと感じたが、表現方法がたくさんあって楽しいとも感じた。
- ・手話を知っておくことで、聴覚障がいのある方とも楽しくコミュニケーションが図れ、コミュニケーションの幅が広がると感じた。
- ・介護実習でのコミュニケーションや、聴覚障がいのある方が何か困っている際に手話ができるよう練習したい。
- ・手話や聴覚障がいへの理解がないことで、人間関係が円滑にいかないこともあると思う。より多くの人が手話に対する関心を持てれば良いと感じた。

6 成果・課題

コミュニケーション方法のひとつとして手話を学び、手話は聴覚障がい者の方にとって”普遍的な存在”であり、”言語としての手話”が確立されていることを認識できた。また今回は、手話駐在所やデフリンピックを例示し、地域レベルから国際社会に至る広範囲に渡って手話や聴覚障がいへのサポート、社会参加が広がっていることも、生徒の新たな知見となったように感じる。これからも聴覚障がい者とのコミュニケーション方法をはじめ、災害時の困りごとや支援方法などを授業内容に適宜取り入れ、障がいの有無に関わらず、すべての人が地域社会で暮らす一員であることを理解するとともに、一人ひとりが手話や聴覚障がいへ関心を持てるような授業づくりを行っていきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

サービス利用者に応じたコミュニケーション【聴覚障がい】について（7月、9月実施）

- ・難聴の種類による聞こえにくさの違い（伝音性難聴、感音性難聴）
- ・障がいを有した時期によるコミュニケーション方法の違い（手話、指文字、読話、筆談など）
- ・災害時等における聴覚障がい者の情報格差
- ・災害時に活用できる手話やコミュニケーション方法
- ・聴覚障がい学生の学習支援体制（大学等におけるノートテイクボランティア）

特別活動

1

希望ヶ丘高等学校 文化祭で手話ポスターを掲示

1 実施回数

1回

2 対象者

保健福祉委員会（1学年）

3 実施者

細川 晴菜（養護教諭）

4 実施内容

保健福祉委員会の企画会場に次のような自作の手話ポスターを掲示した。

「こんにちは 希望ヶ丘高校 保健福祉委員 です 文化祭 ようこそ 美味しい お菓子 石鯛 売ります お土産 どうぞ」の中から、一年生の生徒が一人一つ言葉を選び、連作となるような手話の啓発ポスターを制作した。

5 生徒の感想等

- 絵を書くことが苦手な生徒もいたが、色付けやデザイン、それぞれ個性豊かで丁寧な作品を集めることができた。
- 他学年の装飾担当の生徒からは、「上手だね」という感想もあり、実際に手話を真似する生徒も見られた。

6 成果・課題

- 成果としては、手話に興味を持つ、手話のことを知るきっかけとすることができた。
- 課題としては、学校全体に対し、もっと周知する必要がある。



神奈川県総合産業高等学校 福祉委員会の活動（体育祭）

1 実施回数

3回（委員会 体育祭）

2 対象者

全校生徒

3 実施者

生徒会・福祉委員会生徒 生徒活動グループ職員

4 実施内容

- 福祉委員会でリーフレット配付 説明
- 福祉委員会で動画による研修会
- 福祉委員会 担当生徒による手話練習
- 体育祭 開会式にて
 - ①開会宣言を手話で同時施行（手話通訳にチャレンジ）
 - ②福祉委員会生徒によるリードにより、全校生徒で手話練習及び開会宣言実施

5 生徒の感想等

- 全校生徒の前で手話をするのは初めての経験で、とても緊張しました。けれど、頑張って練習してきたので最後までやりきることができてよかったです。
- 今までこんなに沢山の人の前で手話を披露することがなかったので、とても良い経験になりました。この活動を機にもっと福祉活動に貢献していけたらと思います。

6 成果・課題

手話に取り組む意識や「ともに生きる」の考え方の意識づけができた。また、専門の講師をお招きしたかったが、感染防止対策の観点からできなかった。



体育祭 手話で校長あいさつ



体育祭 ①開会宣言
手話通訳にチャレンジ



体育祭 ②開会宣言 全校生徒で
1 「みんなで一緒に頑張ろう!!」



体育祭 ②開会宣言 全校生徒で
2 「みんなで一緒に頑張ろう!!」



体育祭 ②開会宣言 全校生徒で
3 「みんなで一緒に頑張ろう!!」



体育祭 ②開会宣言 全校生徒で
4 「みんなで一緒に頑張ろう!!」

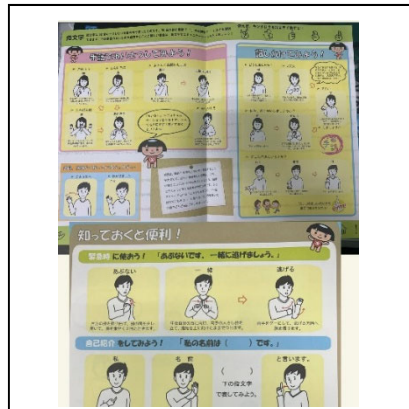
- 1 実施回数
3回（委員会 文化祭（2日間））
- 2 対象者
全校生徒・保護者・来校者
- 3 実施者
福祉委員会生徒 生徒活動グループ職員
- 4 実施内容
○手話スタンプラリー
①「あしなが募金」に協力していただいた方に手話リーフレット配付
②リーフレット内にある7つの手話を文化祭の手話ラリーポイントで行う。
③7つの手話をコンプリートすると、文化祭記念オリジナル缶バッジがもらえる。

LiSA高オリジナルバッジを入手せよ

【手順】
1.ポイントにいる係の人を探し、リーフレットを渡そう！！
2.指定された手話をやってみよう
3.7つ集め終わったら、スタート地点に戻って、缶バッジを貰おう！

手話スタンプラリーの説明

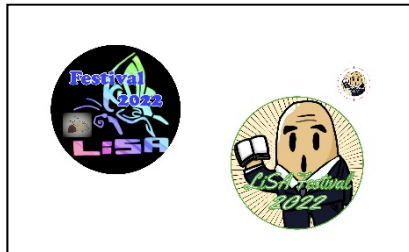
- 5 生徒の感想等
缶バッジの製作やラリーポイントでの手話にチャレンジしてもらうための宣伝活動がたいへんだったけど、体育祭に続いて手話を広める良い機会となった。
- 6 成果・課題
参加した来場者や多くの生徒にとって手話を知ってもらえる良い機会となった。今回、手話を広める活動を生徒がアイデアを出して企画運営を行うことができた。この経験を生かし、今後も生徒主体の取組ができると考えている。



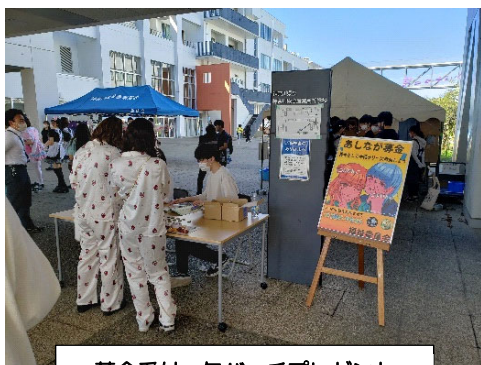
手話リーフレット



ラリーポイントで手話



記念缶バッジ



募金受付・缶バッジプレゼント



募金・手話イベントポスター

特別活動

3

秦野高等学校 社会福祉委員から全校生徒へ

1 実施回数

3回

2 対象者

全校生徒

3 実施者

社会福祉委員

4 実施内容

① 目的：

手話に興味関心を持つ

② 事前指導：(担当教員より)

神奈川県手話推進計画書を熟読し、高等学校における手話推進の趣旨を説明。

併せて、1回で終わるのではなく段階を踏み、複数回行うことで本来の目的を達成できるものと判断。よって今回の目的は「興味を持つ」に設定。最終目的は、「実践できる、普及できる知識を付ける」が理想。その際に、教員から生徒ではなく、生徒から生徒へ、という流れで行っていく必要がある。

③ 企画：(社会福祉委員の代表5名)

各クラスで手話係を決めて、ポスターを作成(全28クラス、28種類)→朝 or 帰りのSHRで実施の旨を社会福祉委員より担任に打診し、予定をしてもらう →紹介および実践

◎ポスター(例) おはよう! さようなら! 静かにね! SOS! おなかすいた! くもり!

晴れ! どうしましたか? へえ~! 大丈夫ですか? 元気?

※留意点:「高校生が実際に使うコトバを選ぶ」

④ 改善点(生徒より):

1. 実践の所要時間をもう少し長く取る 2. 会話の相づちの手話も調べる 例)「大丈夫ですか?」「はい/いいえ」等 3. 全クラスのポスターを共有する 4. クイズ形式で手話で遊ぶ 5. 隣の人と手話だけで会話をしてみる 6. 自己紹介をできるようにする

⑤ 次回計画:

学校行事の落ち着いた10月辺りに、各クラスの社会福祉委員から企画を考えてもらい実践する。朝のHR、複数日にわたって実践予定。(調整中)

5 生徒の感想等

もう少し、「手話」について説明したら良かった。クラスみんなが協力的で嬉しかった。大きな声でしっかりと伝えられた。夏休みに手話の講座を受講してみようと思う。興味を持ってくれた人がいたみたいで嬉しかった。担任の先生が予習してくれていて、手話で会話が出来た。もっと実践的なモノを紹介したい。

6 成果・課題

成果: 社会福祉委員という委員会活動にふさわしい活動が出来た。短期間の中で、企画から実行までやり遂げた。他の生徒へも「手話」に対する壁を下げる役割を果たすことが出来たのではないかと考える。

課題: 学校行事との兼ね合いで、担当教諭→社会福祉委員への連絡が密に出来ず、教員が説明せざるを得ない場面が多くなってしまった。もう少し事前に役員の生徒と話をすりあわすことが出来れば、完全に生徒主体で活動することが出来た。生徒が問題意識を持ち、自分事とすることが出来る環境設定を、秋の実践では心がけていきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組(予定も含む)

(7月初旬 朝のSHR)

社会福祉委員による手話の説明ポスター作成および手話の実践

- 1 実施回数
5
- 2 対象者
全職員・全生徒
- 3 実施者
担任・副担任
- 4 実施内容

【5月 手話月間取り組み】

23 月：挨拶（おはよう・こんにちは・こんばんは）



24 火：お願いします。ありがとう。ごめんなさい。



25 水：わかりました。わかりません。



26 木：また会いましょう。さようなら。



27 金：何かお困りですか。

何かお手伝いしましょうか。



5 生徒の感想等
手話と関わる機会があり、手話に興味を持った。手話検定があるということを知り、どのように受検できるかを調べてみたい。

6 成果・課題
本校はここ数年、手話月間はポスター掲示や図書紹介等のみで手話を実際に行う機会がなかったが、今年は教員や生徒が実際に体験する機会ができた。

部活動

1

二俣川看護福祉高等学校 手話部の活動

1 実施回数

①2回 ②3回 ③2回

2 対象者

①1年生 ②中学生及び保護者 ③一般

3 実施者

①2～3年手話部生徒 ②説明会担当生徒及び手話部生徒 ③手話部生徒

4 実施内容

- ①入学式・新入生歓迎会において、手話パフォーマンス（歌に合わせた手話）を行った。
- ②学校説明会において、生徒の冒頭の挨拶を手話で行う。また、校長の挨拶を手話部の生徒がリレーで手話通訳を行う。さらに、手話部の活動を見学してもらう。
- ③5月の学校外のイベントにおいて、手話パフォーマンス（歌に合わせた手話）や手話クイズを行った。11月にも手話パフォーマンスを行う予定である。

5 生徒の感想等

手話部の生徒は積極的に活動に取り組んでいる。手話ソング等は、一般の皆様にも大変好評である。

6 成果・課題

手話に関心を持つ生徒が多いが、一方で、手話に関する活動が手話部に集中しているため、手話に全くふれない生徒もいる。学校全体としての取組を検討する必要がある。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

（8月 10月 11月）

学校説明会での取組 学校外でのイベントにおける手話パフォーマンス



新入生歓迎会での手話パフォーマンス



手話パフォーマンス
「かながわ看護フェスティバル2022」
（クイーンズスクエア横浜）

展示

1

鶴見高等学校 図書室及び職員室前に手話コーナー設置

1 実施回数

5月中（継続1回）

2 対象者

全学年

3 実施者

司書、図書委員会生徒

4 実施内容

図書室内に手話に関する書籍コーナーを作った。
職員室前のホワイトボードに「5月は神奈川手話月間です」というキャッチフレーズとともに、関連する書籍やメディアで取り上げられている話題などを、親しみやすいものを中心に掲示し、手話への興味関心を喚起するコーナーを設置した。

5 生徒の感想等

「映画『コーダ』で聴覚障がいについて関心を持ったが、こんなにいろいろな本があることを知って読んでみようと思った」などの感想があった。

6 成果・課題

今回は司書や図書委員の取組だったので、一部の生徒は関心を持ってくれたが、もっと多くの生徒たちが関心を持ってくれるように、クラスにもアピールできるとよかった。



展示
2

神奈川県工業高等学校 図書室に「手話コーナー」設置
(神奈川県総合高等学校図書館ボランティアと共同)

1 実施回数

手話月間中常設（6月まで延長）

2 対象者

定時制生徒

3 実施者

図書委員会、学校管理運営グループ

4 実施内容

図書室に「手話コーナー」を設置した。設置にあたっては、定時制図書委員会の生徒が主体的に選書およびポップ等の作成を行った。なお、隣接する神奈川県総合高校の図書館ボランティアの生徒とも協力して作成した。生徒による選書の結果、手話に関する漫画等、生徒が親しみやすい本が選ばれ、盛んに手に取られる様子が見られた。

5 生徒の感想等

今回、定時制図書委員会として初めて「手話コーナー」を設置したが、大変楽しく活動できた。また同様の活動をしてみたい。（1年図書委員）

6 成果・課題

手話コーナーからは実際に本の貸し出しが多くみられた。課題として、準備が遅れたため、5月下旬からの実施となった（結果、6月まで延長した）。また、普段図書室を利用しない生徒への周知が不足していた。



展示
3

神奈川県総合高等学校 図書館に「手話コーナー」設置
(神奈川県工業定時制図書館委員会と共同)

1 実施回数
1回

2 対象者
図書館ボランティア 30名

3 実施者
小池美智代(学校司書)

4 実施内容
図書館ボランティアと神奈川県工業高校定時制図書館委員会との共同作業で、図書館内に手話コーナーを設置するための説明を行った。
その後、手話の本につけるPOPは図書館ボランティアと定時制図書館委員が手分けをして作成する、コーナーの見出しの作成は定時制図書館委員、手話コーナーを紹介するポスターの作成は図書館ボランティアとそれぞれ分担が決まり、見出しとPOPは図書館に展示し、ポスターは完成後校内に掲示した。
定時制図書館委員と相談し、手話コーナーは7月末まで展示を続けた。

5 生徒の感想等
手話の本が面白かった、手話に興味を持った、など。

6 成果・課題
手話を紹介する方法について考え、主体的に活動することができた。11月に予定している手話イベントの開催についても、現在図書館ボランティア有志が計画中である。

7 手話の取組強化月間以外の取組(予定も含む)
11月に図書館ボランティア有志による手話イベントの開催
「手話を代表とする身体表現での会話(意思疎通)をやってみる(仮)」



展示
4

厚木北高等学校 図書館における手話に関わる書籍の展示

1 実施回数

5月13日～5月31日

2 対象者

全校生徒

3 実施者

石川史江（外国語科教諭）、小野かおり（国語科教諭）、大山知子（学校司書）

4 実施内容

学校図書館に所蔵している手話に関わる書籍の展示、紹介を行った。

本校には、手話に関して、教本だけでも平易なものからより実践的な内容のものが所蔵されている。手話の基本的な知識を得られる内容、当事者の声にも触れられる内容の書籍等、幅広い内容の書籍を生徒に向けて紹介した。また、展示コーナーの設置により、図書館を利用する生徒が目にしやすく、手に取りやすい展示を行うことができた。今後は、生徒による書籍紹介等の活動につなげていきたい。

5 生徒の感想等

- ・手話について、いろいろな本があることを知ることができた。
- ・手話の方法について、イラスト等を通して詳しく知ることができた。

6 成果・課題

今回は、図書館前のみでの展示だったため、実際に、生徒がどの程度の知識を得ることができたのか等を把握することができなかった。今後は、生徒の手話に対する関心状況を把握するために、Google Classroom によるアンケートを実施したい。実施の時期や質問項目の内容を、担当者間で検討し、手話への理解を深めることを学校全体で目指していく。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

（2、3学期）

- ・手話紹介のポスター展示（予定）
- ・生徒による手話の紹介、関連書籍の紹介等（予定）



展示
5

二宮高等学校 図書館に聴覚障がい関係資料の展示

1 実施回数

5月9日～5月31日

2 対象者

図書館に来館する生徒

3 実施者

藤田 真澄（学校司書）

4 実施内容

手話の取組強化月間の5月に、聴覚障がい関係資料を展示した。

5 生徒の感想等

展示されていたマンガ「聲の形」を見て、「映画見た？すごい面白いよ」と生徒同士で話していた。またその展示を見た生徒より手話辞典はあるかと司書へ確認があり、展示には出していなかった手話辞典が貸出しされた。生徒より「何で手話なの？」と問われたので、5月が県の手話取組強化月間だということを伝えた。

6 成果・課題

来館時に手話で挨拶してくれる生徒がおり、その生徒とはずっと手話で挨拶している。また手話辞典を貸出した生徒が手話辞典の貸出延長の手続に来たので、使って調べている様子。また別の生徒より「学校」「大学」「高校」の手話表現はどうやるのかとの問いに、司書が手話で回答することがあった。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

（4月）去年と同様、新入生の図書館オリエンテーションを学校司書が手話付で実施。



1 実施回数

職員朝の打ち合わせ 1 回、LHR 各クラス 1 回および各授業多数

2 対象者

全校生徒

3 実施者

管理職、LHR 担任、教科担任

4 実施内容

LHR

○配付されたリーフレットを参考に、担任が挨拶や日常よく使う言葉の手話を生徒に紹介し、生徒と共に学んだ。

授業

○始めるときに手話によりお互いに挨拶をして始めたり、終わりの挨拶に手話を活用した。

部活動

○漫画研究部において、手話の絵を描いてポスターの作成をした。

5 生徒の感想等

○意外と簡単に覚えることができた。

○わかりやすい手話もあるので他にも調べてみようと思った。

○興味を持って参加することができた。

6 成果・課題

成果

○手話に関心をもち生徒自身で手話を調べるようになった。

課題

○継続的に使用しないと忘れてしまうので、1年を通して手話に取り組む必要がある。



漫画研究部制作

1 実施回数

5月9日～31日

2 対象者

全校生徒

3 実施者

ホームルーム担任、副担任、生徒会役員、図書委員等

4 実施内容

- ・生徒会役員で、ラミネート加工した手話の基本的な挨拶等の方法を掲示し、全校生徒に紹介した。また、生徒総会の場で、生徒会役員が手話による挨拶を行った。
- ・図書委員会の活動で、手話の関係の本を増やし、図書館内に期間お薦め本コーナーを設置した。
- ・担任や副担任がクラスにて改めて基本の手話を紹介、実践した。

上記の手話の説明を強化月間後も継続して掲示し、生徒が手話について知り、考える機会とした。

5 生徒の感想等

日常生活の中で自然に使う機会が少ないので、一度実践して知ることはできるが、身につけるのは難しいと思った。挨拶等、理解しやすく覚えやすいものもあると感じた。

6 成果・課題

日常生活の中では、使う頻度が少ないため、生徒が手話による挨拶を自然に活用するまで高めていくには、継続的な活用機会・時間が必要である。また繰り返し触れる機会を作っていきたい。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

（検討中）

手話の紹介及び本の紹介の特集を組み、図書だよりに掲載
美術部が、基本的な手話を紹介するポスターを作成



美術部（1年 提坂 桃子）制作

高浜高等学校 手話コミュニケーション部の活動
コミュニケーション技術の授業

1 実施回数

① 7回 ②7回 ③年間70時間(2単位授業) ④週2回以上

2 対象者

① 全校生徒 ②全校生徒 ③3学年福祉関係授業の選択生徒 ④部員約30名

3 実施者

①手話コミュニケーション部 ②各HR担任 ③外部講師 ④外部講師、顧問

4 実施内容

- ①手話コミュニケーション部の生徒が、教職員に対して日常で活用できる手話の指導を行った。
- ②手話コミュニケーション部の生徒から教わった教員が、各HRでクラスの生徒と一緒に手話の実践を行った。
- ③3年生の必修選択「コミュニケーション技術」において、さまざまな手話の実践および手話による生徒同士のコミュニケーションを行った。また手話を言語とする方々の講演および交流を実践した。
- ④手話コミュニケーション部の生徒が、手話の知識、技術を身に付けることと同時に、ろう学校の生徒とのオンラインによる交流を通して、手話の技術および他者との交流を深める機会を設けた。

5 生徒の感想等

- ①について：生徒が教員に手話を指導することで、生徒自身がさまざまな準備を自主的に行うことができた点と、学校内での手話の活用が図られた点から、さらに手話を学ぶ意欲が出てきた。
- ③について：学習した手話が日常生活や手話を言語としている方に通じたことの喜びが大きかった。

6 成果・課題

生徒自身が他者との交流に手話を役立てられただけでなく、手話を言語としている人にとって、生徒自身が大きな情報源にもなっていることは大きな成果であるとする。

7 手話の取組強化月間以外の取組（予定も含む）

(通年)

- ・3年必修選択「コミュニケーション技術」での手話の学習および実践。
- ・手話コミュニケーション部による手話を通じた手話の学習および社会貢献の実践。

【生徒による教員への手話教室】

「おつかれさま。おはようございます。だいじょうぶです。」



1 実施回数

5月16日～31日まで16日間

2 対象者

全校生徒

3 実施者

生徒会役員生徒、生徒会グループ職員

4 実施内容

- ・生徒総会において、生徒会役員が手話を交えて自己紹介をするとともに、5月が「手話の取組強化月間」であることを全校生徒に紹介した。
- ・図書室に手話コーナーを設置し、手話の習得や、手話通訳士などの職業や資格について調べられる書籍を閲覧できるようにした。
- ・1年次生徒にリーフレット「手話を楽しく学ぼう！」を配付し、担任が手話の取組強化月間であることを紹介した。
- ・全クラスおよび、校内の各階に指文字のポスターを掲示し、手話に興味を持てるようにした。
- ・本校HPの「校長のつぶやき」で手話を紹介した。

5 生徒の感想等

手話に興味があった。実際に手話で会話をしてみたいと思った。

6 成果・課題

手話に関心を持った生徒もいるので、一定の成果はあった。強化月間だけではなく、継続して取り組む機会を作っていくことが課題である。



校長の内田です。もうゴールデンウィークも終わりました。早いなあ～。向陽館に来てからもう一か月以上たつなんて…。年を取ってくると時間の進むのがどんどん早くなるような気がします。今年4月にも夏日にも何回かかってますね。最近、春と秋が短くなっているような気がします。そう思っているのは私だけでしょうか？春秋は過ぎやすくてとってもいい季節ですよ。短いのは寂しいなあ…

5月は「手話月間」

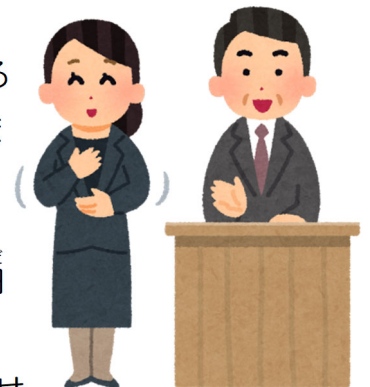
みなさん、知ってましたか？神奈川県は5月を手話月間と定めていることを。この5月は手話の様々なイベントが県内各地で行われています。

前任校に続き、相模向陽館の着任式のご挨拶は手話でやりました。

声を出さずに口パクで「みなさん、おはようございます。校長の内田です。よろしくお願ひします。」と。生徒たちも先生たちもぽかーん。

もしかしたら、「この校長はしゃべれないかも」と思ったかもしれませ

ん。すぐあとの始業式での校長の挨拶の一言目は「しゃべれます。」生徒たちはちょっと驚いたような顔をしていました。



手話に触れたのは4年前に勤務していた相模原中央支援学校です。それまで手話の一つも覚えていませんでした。

相模原中央支援学校には「知的障害教育部門」、「肢体不自由教育部門」に加え、「視覚障害教育部門」と「聴覚障害教育部門」があります。全国的にも珍しい、神奈川県では唯一の4障害種部門ある支援学校です。

毎日、通学してくる子どもたちの朝のお迎え、放課後のお見送り、そしてお昼時の全クラスの巡回を、毎日行っていました。その中で一番コミュニケーションが取れな



かったのが聴覚障害ある子どもたち。「おはよう」と声をかけても「おはよう」とは返ってこない。それは当然ですね。聞こえてないんですから。（子どもたちは口元を見て、手話で返してくれますが）言葉が通じない…コミュニケーションが取れないから、なかなか関われない。そんな感じでした。

どうしても子どもたちとかがわりたい。そのためには手話ができるようにならないと…。ということで、まず手話辞典を買い、ご挨拶から練習をしました。目の前に行って「おはよう」の手話。ニコニコしながら手話で「おはよう」と返ってきます。その時、とっても嬉しい気持ちになりました。それから少しずつ覚えた手話です。（使ってないと忘れてしまいます）

手話は聞こえない方のコミュニケーションの一つです。でも聞こえる人だって使っているんです。先日、教室を回っていた時に一人の生徒から「新しい校長先生はしゃべれないのかと思った。着任式の時の手話は何て言ったの？」と聞かれました。あっ、あの場では、細かい説明までしてなかったな。そして、みんなの前で急遽、手話あいさつ講座。『みなさんおはようございます。校長の内田です。よろしくお願ひします。』って言ったんですよ。みなさんはこう、おはようの意味は枕を外して、挨拶をするから…。ついでに「こんにちは」「こんばんは」なんかも意味を含めて伝えました。みんな真似してやってくれました。聞こえる人同士でも手話を通じて人と人のコミュニケーションができました。これも嬉しかったな。また、機会があったら、手話講座をやりたいと思っています。その後、手話の話題で何人もの生徒さんから声をかけてもらいました。ありがたいことです。

手話にまつわる話をもう一つ

私の趣味は山登り。友達と山へ行った時のこと。友達が手話で話している女性二人がいることに気が付きました。横を通り過ぎるときに手話で「こんにちは」のご挨拶をしたら、「こんにちは」と手話で返ってきました。



女性の一人が「手話できるの？」（ここからの会話はすべて手話です）と聞かれたので「少しだけ」。とてもうれしそうな笑顔で会話しました。でもその手話が早い…。聞き取れないじゃないけど、見とれない？（笑）思わず「もう少しゆっくり」とお願いしちゃいました。それから「ゆっくりとどこに住んでいるのか」とか、「仕事は何をしているのか」とか、私



にあわせてくれて、いろいろな話をさせてもらいました。私の仕事が「校長」だとわかってびっくりしてました。その先々も休憩場所とタイミングが同じだったので「疲れたね」とか「もう少し頑張ろう」とか休憩のたびに話ことができました。お別れするときには「とても楽しかったです。気を付けて帰ってね」と笑顔で言ってくれました。山でも街でも手話を使っている人が話しかけられることが少ないから、余計嬉しかったんだと思います。もちろん私も楽しかったです。

ちょっと手話講座です。手話には意味がありそれを覚えてしまうと意外と簡単です。今日は「挨拶編」



「おはよう」…「朝」の手話と「挨拶」の手話の組み合わせです。

- 朝は枕を外す様子。挨拶はお互いに腰を曲げて、お辞儀をする様子。

「こんにちは」…「お昼」と「挨拶」の組み合わせです。

- 昼は時計の12時。

「こんばんは」…「夜」と「挨拶」の組み合わせです。

- 夜は目の前が暗くなる。

その意味が分かると使いやすくなりますよね。

誰でもが手話を使えて、誰とでも会話できたら素敵ですよね。



きょう 今日ここまでです（了）

手話ポスター紹介



▲横浜翠嵐高等学校 美術部



▲横浜翠嵐高等学校 美術部



▲横浜翠嵐高等学校 美術部



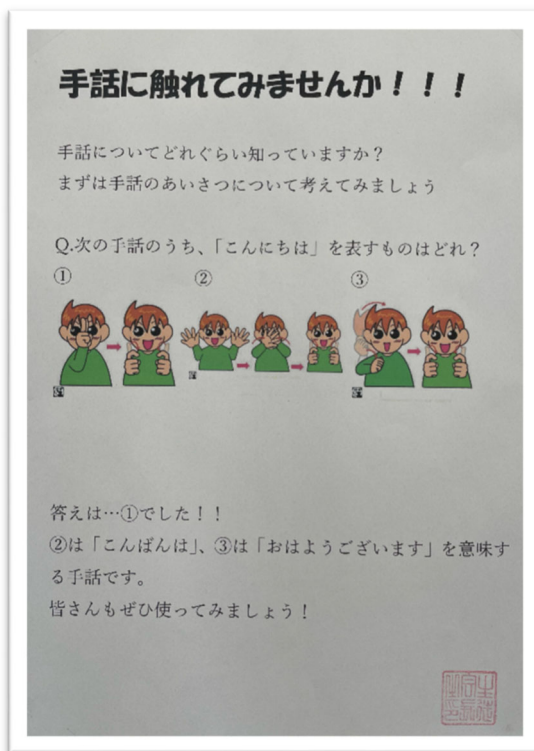
▲横浜立野高等学校 美術部



▲横浜立野高等学校 美術部



▲横浜立野高等学校 美術部



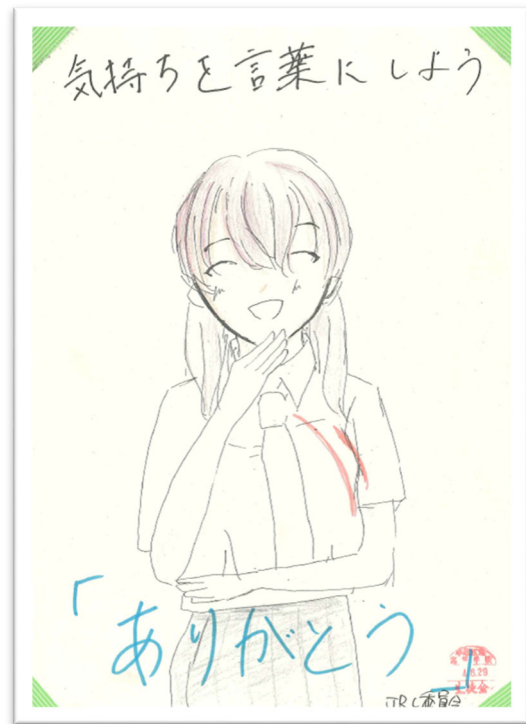
▲横須賀高等学校 生徒会



▲横須賀高等学校 生徒会



▲平塚江南高等学校
JRC委員会



▲平塚江南高等学校
JRC委員会



▲茅ヶ崎北陵高等学校
JRC部



▲秦野高等学校

発行 令和4年12月5日
編集者 神奈川県教育委員会教育局指導部
 高校教育課長 増田 年克
発行者 神奈川県教育委員会
 〒231-8588 横浜市中区日本大通1
 TEL (045)210-1111 内線8260